

第四項 海軍大學校

海軍大學校ト水雷術トノ直接的關聯ハ明治二十一年ノ創立ヨリ大正七年海軍大學校ニ於ケル乙種學生
教程ノ廢止時ニ及ベリ本項ハ本期間ニ於ケル本校諸制度中特ニ水雷術ニ關係アル事項ヲ概記セントス
ルモノナリ(帝國海軍教育史卷五及同増補卷一、下參照)

明治二十一年七月十四日海軍大學校官制ヲ公布セラレ次デ同四月十七日海軍大學校條例ヲ定メ八月海
軍大學校ヲ東京京橋區築地四丁目一番地ニ創設シ舊海軍兵學校生徒官ヲ以テ之ニ充ツ其ノ官制及條

例中水雷術關係事項ヲ摘記スルコト左ノ如シ

海軍大學校條例(摘要)

- 一、海軍大學校ハ海軍將校ヲ選抜シテ學生トナシ高等ノ學術ヲ授クル所トス
 - 二、學生ハ分チテ左ノ三種トス
 - 甲號、大尉ニシテ砲術長、水雷長、航海長、機關長及砲術、水雷、航海機關各科教官ノ職ニ適スル學術ヲ修ムル者
 - 乙號、佐官及大尉ニシテ各自選擇スルトコロノ學科ヲ修ムル者
 - 丙號、少尉ニシテ高等ノ數學物理學ヲ修ムル者
 - 三、甲號學生ニシテ砲術科、水雷科、機關科ヲ卒業シタル者ハ各其ノ專科ニ從ヒ砲術練習艦、水雷術練習艦、橫須賀造船所ニ移シ六箇月間實地ノ練習ヲ爲サシム
 - 四、甲號學生中航海科專修ノ者ハ學科卒業ノ後其ノ他ハ學科術科卒業ノ後特別ノ職務即チ航海長、砲術長、水雷長、機關長ニ適任ノ者トシテ其ノ證書ヲ授與ス
 - 五、甲號學生中秀逸ノ能力アル者ハ航海科專修ノ者ハ六箇月以上海上勤務ノ後其ノ他ハ各練習艦及橫須賀造船所ノ教程ヲ終リタル後再ビ入校セシメ尙六箇月間修學セシムルコトアルベシ
- 即チ本條例ニ見ルガ如ク本校創立ノ目的ハ現時ニ於ケルモノト全然之ヲ異ニシ注トシテ從來士官教育ノ爲練習所練習艦等ニ於テ行ハレタル各種教程ハ普通程度ノ一般式教育法ニ過ギザルニ對シ各專科毎ニ更ニ一層高等ナル學識技能ヲ涵養セシムルノ機關タラシムニ在リ這邊ニ對シ帝國海軍教育史ノ叙フル所左ノ如シ

科學ノ駁々タル進歩ニ伴ヒ歐米列國海軍ノ學術及技術ハ日進月歩ノ發達ヲ爲シ艦船兵器ノ構造ハ總テ學理及實驗ノ應用ニ基クモノ

ニ他ナラズ故ニ我海軍ニ於テモ時ノ海軍大臣西郷從道ハ教育法刷新ノ緊要ヲ認メ明治十九年八月將校竝ニ機技部士官及生徒教育法取調委員會ヲ設ケ現時ノ普通教育ノ上ニ更ニ高等教育ノ方案ヲ案劃セシメタルモ其ノ方案及實施ノ適否ニ關シテハ將來ニ影響スルコト多大ニシテ頗ル重要ノ問題ナルヲ以テ海軍ノ學識經驗兼備ノ者ヲシテ審査立案ノ衝ニ當ラシムルノ要ヲ認メ其ノ決定ヲ保留セリ海軍大臣ハ翌二十年歐州巡迴視察中倍々其ノ必要ヲ痛感シ英國海軍當局ニ内議シ同年九月同國海軍大佐「ジョインインケルス」ヲ招聘シ專ラ如上ノ任務ニ服セシム是レ海軍大學校設立ノ實現セル主因ナリ

同 二十六年十二月從來ノ甲號乙號等ノ稱呼ヲ廢シ將校科學生機關科學生等ニ改メタリ從ツテ甲號水雷科學生ハ新ニ將校科水雷科學生ニ變更セリ

水雷科學生教程中水雷術ノ細目次ノ如シ

原磁論、發電子及其ノ捲方、集會器、集電子保器、電花及「リード」ノ角度、發電機ノ發熱作用、發電機ノ調理法、表性表、發電機計畫、各種發電機ノ構造、發電機聯合法、電氣發動機(電動機)トシテ發電機ヲ運轉スル法、「トランスフォーマー」、電燈用電纜製法大意及電氣分配法、弧狀及白熱電燈諸器具變電路器竝ニ安全溶解器ノ構造、電纜及電線ノ製法大意、水上爆發、海中爆發ノ作用、同測定用器具、海中爆發ノ分析及諸算式、海中爆發諸實驗ノ成績、水雷罐ノ形狀及性質、水雷ノ裝藥量及其ノ間隔ニ關スル理論、水雷ノ沈降度、繫維益ニ關スル算法等水雷要具ニ關スル論說、外國採用ノ攻撃及防禦水雷等、水雷ニ關スル人員、艦隊ニ於ケル水雷防禦ノ計畫、永久水雷防禦ノ計畫、水雷防禦部ノ一般攻撃法、魚形水雷發射法ノ種類及其ノ利害、艦船ノ水上發射管ヨリ水雷ヲ發射スル法、水雷ノ偏斜度「風曲度」發見法、艦船ノ水中發射管ヨリ水雷ヲ發射スル法、進行艦船ヨリ又ハ之ニ向テ水雷ヲ發射スルトキニ行フベキ調理及運轉法等、水雷艇ノ種類及能力、各艦及水雷艇ノ水雷裝置、各國海軍ノ水雷兵裝及水雷艇同 三十年四月海軍少佐坂本俊篤ハ海軍將校竝ニ相當官ニ對スル教育ノ大系ト稱スベキモノヲ叙述シ之ニ附帶スル諸條規ノ改正竝ニ理由ヲ添ヘ當局ニ提出セルガ當時諸學校條例規則ノ改正ハ多ク此ノ

意見ノ要領ニ基キタルモノナリ(別紙第一)而シテ本校將校科水雷科學生教程ニ關スル意見ノ要旨トスルトコロハ海軍大學校ニ於ケル現行教程ノ實質ハ實ニ砲術、水雷等専科ノ範圍ヲ超ユル能ハズ之ヲ大學ト稱スル甚其ノ及バザルモノアルヲ知ル即チ實際ハ之等専科士官ノ養成所ニ外ナラズ是直ニ砲術水雷練習所等ノ制ト重複シ教育ノ聯關ヲ妨グルモノナリ曷ノ莫大ノ大學費用ヲ擲テ重複ノ弊ニ陷ルノ愚ヲ爲スヲ須ヒン宜シク之等専科ノ學修ハ各該當練習所ニ移スベク大學校ハ其ノ本然ノ使命タラザルベカラザル戰術戰略、軍務、軍政等ノ攻究ヲ主トスル如ク構成セラルベシト云フニアリ

同 三十年九月二十一日海軍大學校條例ヲ改正セラル次デ定メラレタル海軍大學校規則ト共ニ其ノ要部ヲ左ニ掲記ス

- 一、海軍大學校ハ海軍將校及機關官ニ高等ノ學術ヲ教授スルトコロトス
- 二、海軍大學校學生ヲ左ノ四種トス
 - 一、將校科甲種學生、機關科學生、選科學生
 - 二、將校科甲種學生ニハ樞要ノ職員若クハ高級指揮官ノ素養ヲ爲ス爲メ高等ノ兵學及其ノ他ノ學術ヲ教授ス
 - 三、將校科乙種學生ニハ砲術、水雷術若クハ航海術ノ學理ヲ教授ス
 - 四、將校科乙種學生ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ズ
 - 五、將校科乙種學生ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ズ
- (一) 海上勤務一箇年以上ヲ經タル海軍大尉
- (二) 砲術水雷術若クハ航海術ヲ專修セシムルニ適當ト認メタル者
- (三) 入學試験ニ合格シタル者

六、將校科乙種學生卒業スルトキハ其ノ專修學科ニ應ジ海軍砲術練習所學生若クハ海軍水雷術練習所學生ヲ命ズ
 七、將校科乙種學生ノ修學期ヲ六箇月乃至八箇月トス

乙種學生水雷術專科教程左ノ如シ(凡百五十日)

- (一) 水雷術
- (二) 砲術大意
- (三) 造船學大意
- (四) 機關學大意

- (一) 數學
- (二) 物理學
- (三) 化學
- (四) 力學及應用力學

而シテ本教程構成ノ要領トシテ左ノ如ク示セリ

水雷術ハ從來水雷科將校ニ課シタル水雷術ノ科目ヲ以テ其ノ大體ニ於テ適用スト雖其ノ一部分ハ之ヲ水雷術練習所ノ教程ニ移
 スベキ豫定ナルヲ以テ之ヲ從來ノモノニ比スレバ省略スル所多シ

砲術ノ大意ヲ課スル所以ハ戰闘ノ要ハ兩者ノ間互ニ相待テ奏効ノ場合多キニ居ルベキヲ察シ之ヲ教授ス

造船術及機關術ハ各其ノ水雷術ノ密接ノ關係ヲ持ツ所ノモノニ於テス豫科ハ其ノ本科ニ入ルノ豫備門トシテ各科學ニ於テ最モ
 其ノ應用ニ適切ナルモノヲ教授ス

爾後新乙種學生(水雷術)ニ關シテハ部分的變改アリシモ其ノ大綱ハ概ネ前記ヲ蹈襲セリ

同 三十九年七月二十二日海軍大學校敎則ヲ制定シ敎科、教程ヲ改定セリ將校科乙種學生水雷科ニ關
 スルモノ左ノ如シ

教科	教程	綱目
戰術	基本戰術、兵棋演習	
水雷術	水雷用諸電氣器具、電氣通信機、防禦水雷、攻擊水雷等ノ構造、用法、効力並ニ其ノ得失、港灣防禦計畫及水雷戰術等ノ事項	

造 船 學	艦船ノ構造及理論ノ大要
築 城 學	永久及臨時築城地點ノ選定、堡壘ノ經始、編制、陸地測圖及海岸要塞ノ攻守
機 關 學	機械、罐、水壓機、電氣機械ノ構造及理論ノ大要
普 通 學	高等數學、物理學、(光、熱、電氣、磁氣ヲ主トス)、力學、應用力學
語 學	英、佛、獨、露、語若クハ支那語

同 四十年四月二十日本校條例ヲ改正セラル關係事項左ノ如シ

- 一、海軍大學校學生ハ之ヲ左ノ五種ニ區別ス
 - 甲種學生、乙種學生、專修學生、機關學生、選科學生
- 二、乙種學生ニハ砲術、水雷術又ハ航海術、ニ關シ特科將校タル素養ヲ與フル爲メ必要ナル高等ノ學術ヲ教授ス
- 三、乙種學生ハ海軍大尉又ハ中尉ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ニ就キ海軍大臣之ヲ命ズ
 - (一) 身體強健、實務ノ成績優等ニシテ卒業後、砲術、水雷術又ハ航海術、ニ關スル高等ノ學術ヲ專修セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル者
 - (二) 入學試験ニ合格シタル者
- 乙種學生ニ關スル本改正ノ理由ハ乙種教程ノ性質ヲ全然變更シ之ヲ砲術水雷術ノ各專修ニ移ルベキ高等ノ普通學及一般ノ軍事學トシ其ノ卒業者ハ其ノ目的ニ應ジ砲術學校水雷學校ノ高等學生教程ヲ履マシムルヲ可トスルニ由ル
- 同時ニ乙種學生ノ學科教程ヲ次ノ如ク定メラル

學科	教	程	綱	目
戰術	基本戰術、兵棋演習			
航海學	行船方程、其ノ他航海術ニ關スル須知ノ諸事項			
造船學	船艦ノ構造及理論ノ大要			
機關學	推進機關、補助機關ノ構造及理論ノ大要			
普通學	數學、物理學(電氣、磁氣ヲ主トス)化學、力學及應用力學			

大正五年十二月海軍大學校乙種學生修業期間ヲ四ヶ月半ニ短縮シ因ニ得タル約一ヶ月半ヲ海軍砲術學校及水雷學校ニ於ケル高等科學生ノ當該校ニ於ケル實地修業時間ヲ增加セリ(前記水雷學校ノ部參照)

同 七年七月海軍大學校條例及從來ノ乙種學生教程トノ連繫關係ニ在ル各學校條例ヲ改定セラレ本校ニ於ケル乙種學生教程ヲ全廢シ砲術、水雷術ニ關スル高等ノ學術ヲ修ムベキ素養ハ舉ゲテ夫々砲術學校、水雷學校ニ於テ一併賦與セラルルコトトナリ水雷術ト海軍大學校トノ直接的連繫ハ其ノ用兵上ノ方術ニ關スルモノノ外斷絶セラルルコトトナレリ

別紙第一

海軍將校並ニ相當官ニ對スル教育ノ大系ニ關スル意見

明治三十年四月

海軍少佐 坂 本 俊 篤

海軍教育ノ發端

(略)

海軍將校ノ教育

海軍教育期ヲ左ノ三期ニ區別ス

初等教育期

海軍兵學校及實地航海練習艦ニ在ルノ期ヲ云フモノニシテ此期ニ在ルノ間ハ極メテ規則正シク一定ノ教科ノ順序ヲ以テ海軍科學ニ入ルノ門タル普通學並ニ海軍科學ノ全般ヲ通ジテ初等的ニ習得スルトコロアラシメ其ノ實地航海練習艦ニ在ルノ日ハ之等座上初等的教育ヲシテ之ヲ實際ニ會心セシムルヲ以テ目的トス蓋シ之等二種ノ教育ハ前後相俟ツテ海軍初級士官タルニ適スル初等教育ノ完體ヲ構成スルモノトス

中等教育期乃至誘掖教育期

海軍初級士官(少尉)タルノ資格ヲ以テ其ノ勤務間ニ於テ常ニ上長ノ誘掖監督ノ下ニ在ツテ初級教育ニテ得タル處ノ事物ヲシテ之ヲ實際ノ職務上ニ會心セシメ其ノ才學性行ニ應ジテ自家將來海軍ニ於ケル立脚ノ地ヲ爲ス處ノ科學ニ向ツテ其ノ嗜好並ニ長技トスル處ヲ發揮セシムルノ期トナス

高等教育期

海軍大尉級ニ在ル者ヲ選ビ之ニ海軍專科タル砲術、水雷術ヲ高等教育ノ程度ニ於テ之ヲ授ケ學科技業共斯科ニ於テ充分ナル責任ヲ帶ビテ職務ヲ遂行スルニ足ルノ人材ヲ養成シ且此間有數ナル將校ヲ選拔シ之ニ海軍科學ノ高尚ナルモノ及海軍ニ緊要ナル法學ノ一部ヲ授クルノ目的ヲ以テ海軍大學校ニ於テ教科ヲ授クルノ期トナス

(中略)

水雷術専科將校ノ養成

海軍大尉中才學識見共ニ海軍専科ノ將校タルニ耐フル者ニシテ水雷術専科ヲ志願スル者ヲシテ専攻スルトコロアラシムルモノナリ

水雷術専科ハ之ヲ水雷術練習所ニ於テ専攻セシムルモノニシテ其ノ教程ノ初メニ於テハ海軍大學校ニ於テ専科將校ノ學識トシテ必要ナル物理學、化學並ニ水雷術ニ係ル學理ノ一部ヲ教授シテ凡ソ八箇月ヲ以テ其ノ科ヲ終ヘシメ終業ノ上ハ之ヲ水雷術練習所ニ移シ凡ソ六箇月間ノ教程ヲ履行セシメ卒業セル者ニハ水雷術適任證書ヲ授ケ其ノ所要ニ應ジテ水雷術ニ係ル司職ニ任セシム其ノ教科ハ左ノ如シ

第一、水雷術學 第二、技業 第三、發射水雷艇ノ操縱詳細ナル教程ハ別ニ之ヲ定ム

水雷術練習所ニ於テハ大尉専科將校ヲ養成スルノ外ニ機關士ノ教程ヲ設ケ之ニ防禦水雷學ノ概略並ニ魚形水雷ニ係ル教程ヲ授ケ水雷術部ニ係ハル司職ニ任ズル士官ノ養成ニ充テシム

海軍上等機關兵曹ヲシテ入學セシメ之ニ概略機關士ニ對スル同一ナル旨趣ニ基クトコロノ教程ヲ授ケ機關技業ニ熟練スル處ノモノヲシテ更ニ魚形水雷ノ技業ニ於テ老練ナル水雷准士官ヲ養成スル處アラントス

外ニ海軍佐官、並ニ海軍上等兵曹ヲシテ入學スルトヲ得セシメ以テ水雷術ノ進歩ニ追隨シテ相違レザランコトヲ期セシム